

令和2年教育行政執行方針

令和の時代を迎えた今、我が国では、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、Society 5.0の到来といった社会の変化に伴い、教育を取り巻く環境が大きな変化を見せています。

こうした中、中央教育審議会では、新しい時代の初等中等教育の在り方について諮問を受け、これからの学びを支えるICTや先端技術の効果的な活用、義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方などについて、審議が進められています。

市教育委員会としては、これらの動向を見極めながら、令和2年4月から全面実施となる新学習指導要領の着実な実施を図るとともに、市民一人ひとりが生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現に努めます。



登別市教育長
たけだ ひろし
武田 博

将来にわたって輝き続けるまちの実現を目指し、登別市教育大綱を基本として、ふるさとの教育資源を積極的に活用し、豊かな個性や人間性をもつ人材の育成に全力で取り組んでいきます。

※令和2年教育行政執行方針を要約、抜粋したものです。

地域とともにある学校づくり

これまで取り組んできた地域全体で子どもたちの育成を図る『地域学校協働本部事業』について、よりきめ細やかに地域の実情を把握し、将来を見据えて持続可能な取り組みとするため、学校コードイネーターの配置を段階的に進め、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進により、登別らしい特色ある教育活動を展開していきます。

幼保・小・中連携、小中一貫教育

北海道教育委員会による『幼児教育と小学校教育の接続の円滑化モデル事業』の指定を受けて取り組んでいる相互参観や合同研修、スタートカリキュラムの作成などを効果的に反映させ、引き続き事業の推進に努めていきます。

また、各中学校区において展開されている義務教育9年間の系統性・連続性に配慮した創意ある教育活動の成果と課題



▲保育所や幼稚園などの先生と小学校の先生が情報共有を図る『幼保・小実務担当者会議（合同引継ぎ）』

を検証し、実践交流の充実が図られるよう支援していきます。

キャリア教育

登別青嶺高等学校や北海道登別明中等教育学校、日本工学院北海道専門学校と連携し、職場訪問や職業体験を通して地元への愛着や理解を深め、児童・生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた取り組みを推進します。

学力の向上

登別市教育課程課題検討委員会における無回答率や誤答の実態把握、分析結果を活用し、個に応じた指導や授業改善など、各学校における教育実践の充実が図られるよう支援していきます。

学校図書館

小・中学校が連携した取り組みや児童・生徒が主体的に取り組む図書委員会の活動など、さらなる読書活動の充実を図っていきます。

英語教育

英語学習に対する関心・意欲が向上するよう、小学校4年生全員の英検ジュニア受験、中学生に対する英検3級検定料の半額補助を実施するとともに、外国語指導助手の活用や環境整備に努め、コミュニティ・ベースとなる資質・能力の育成を図っていきます。